

Musée Bernard Buffet



Buffet-Kun e-book vol.3

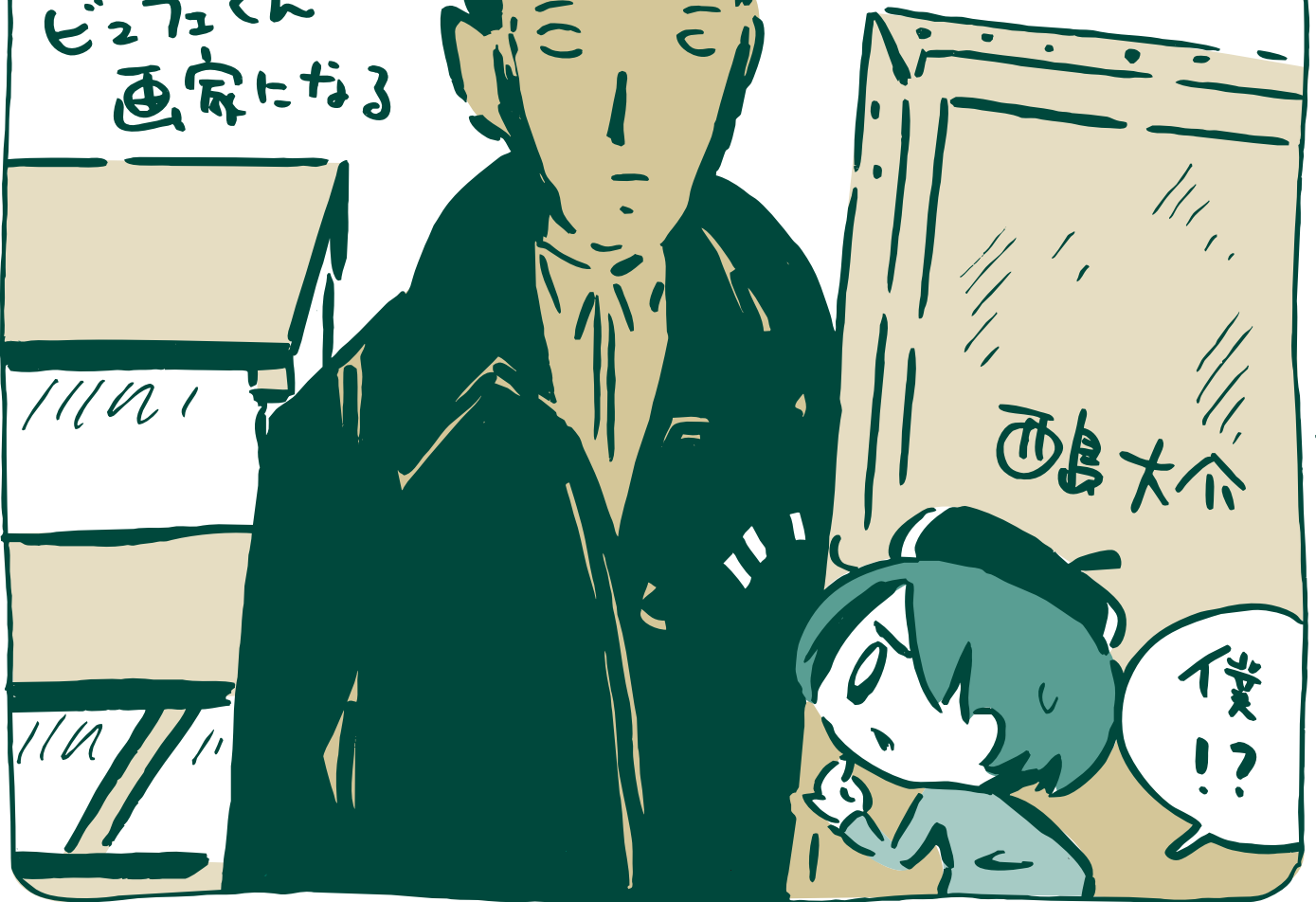
「よくもろのうさ目」。「月刊ビュフェくん」が読めるのは「ジュン美術館」だけ!!

ベルナール・ビュフェをもっと好きになる月刊紙!!

月刊ビュフェくん

笑話
ビュフェくん
画家になる

第3号



作品「自画像」(1946年)。

第2次世界大戦が終結した1945年、パリ。
戦争が終結したのはいいけれど...
母を喪ったビュフェくんは
傷心のせいか、せめて入学した
エコール・デ・ボガールを退学。



孤独の中にあっても。



学校をやめた
ビュフェは、
独立独歩で
画家を目指します。
フランスの哲学者
サルトルの言葉は
この夏のビュフェ...
いやフランスの
全ての若者たちの
気分を代弁。



サルトルは1905年生まれます。ビュフェより23歳年上。

「戦争が、死ぬ間際に後に残したのは、
裸形の人間、何の夢もなく、自分の力だけで
なんとかせねばならなくなり、自分以外に
たよるものは何もないということが
判った人間である」 (ジャン=ポール・サルトル)

大戦の終末 (1945) からニキッアミオン山に所収より。



変えるもののない人間が、
できることといえば、
今も昔も変わらない
もので……



ビュフェはさまざまな
展覧会に作品を
出品し始めます。

1946年、18歳で初めて
「サロン・デ・モワン・ド・トランタン」
(30歳未満展)に
「自画像」を出品。



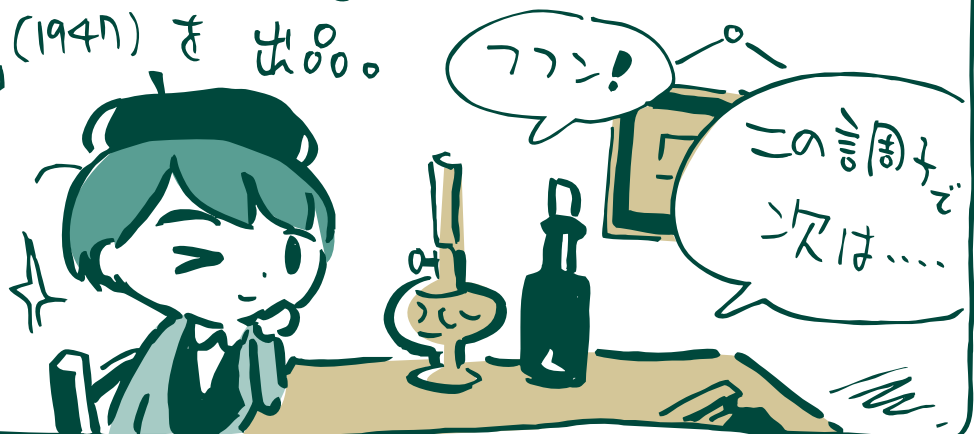
P.1
トランタンの絵です。

翌1947年、芸術アカデミーの審査なしに
応募できる「アン・デ・パンダン展」(独立展)にも
風景画と静物画を出品。



同年、「サロン・ドートンヌ」(秋期展)には
「肘をつく男」(1947)を出品。

美術批評家
ジャン・ブレが
これを絶賛。



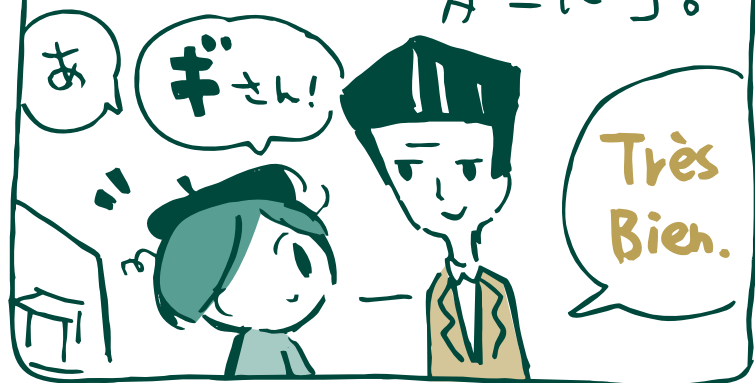
このコマと同じポーズ、レイアウトの作品です「肘をつく男」。

馬区
は上がっていく1947年、19歳。

ビュフェの特徴のある
画風は、
批評家 コレターの
間で話題になって
いきます。
そして同年の冬、
12月17日……



ビュフェくんは
わずか19歳にして、
初個展を開催。
場所はパリ5区、
カルティエ・ラタンと呼ばれる
学生街の一角にある
書店「アンプロレシヨン・
ダール」。



ふーん、他、コレに、デカに、(批評家)のサポートで個展が実現。

こうして 画家・ベルナール・ビュフェが誕生。

また、物資が
とぼしく、
絵具の入手も
ままならぬと頁。
抑えられた
色彩と、
孤独や不安を
感じさせる作風は
時代の「今」を
描き出していたのでしょう。

ビュフェの理解者
美術批評家
ギ・ウェーレン



28歳

ビュフェくん19歳になったけど、見た目は9歳のまま!

ググ

セーヌ川

キルセーに橋

名門の
母校です

1945年
アトリエ作品賞
もらったよ!

美術・文
学・音楽

15歳で
飛べ級入学した
国立高等美術学校

ユー・ジェ・ヌ・
ナルボンヌ
教授に師事

エコール・デ・
ボザール

ガイストンティ
画廊

フローレン
ニモって
執筆

カフェ・ド・
フローレン

サン・ジュルマン
＝デ＝プロ教会

女になる!

第二の性

サルトル
ボーヴォワール

ド・マゾ

リッパ

フランソワーズ・
サガン

悲しみよ
ここにちか!

まだ ビュフェと
出会う前の
アタベル
(後の妻)

1941
6E

ピュエルの

サン・ジェルマン・デ・パリ入門

Manuel de Saint-Germain-des-Prés

